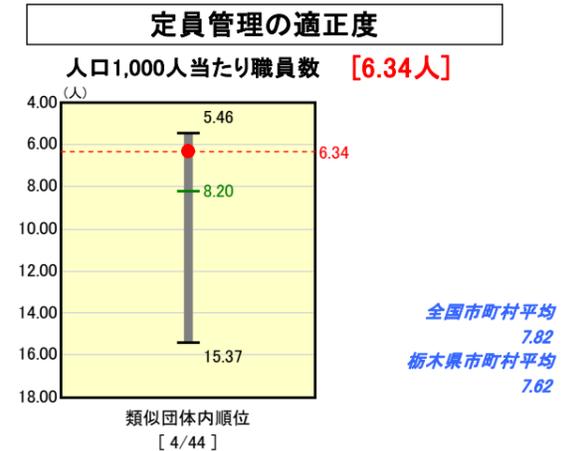
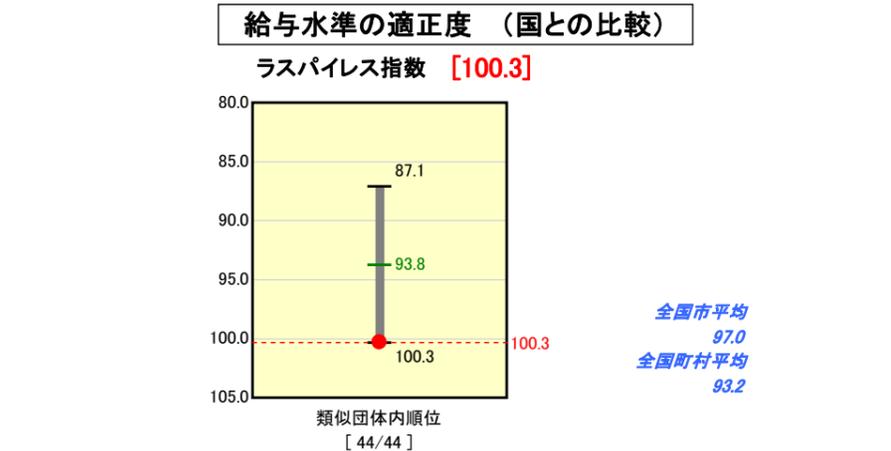
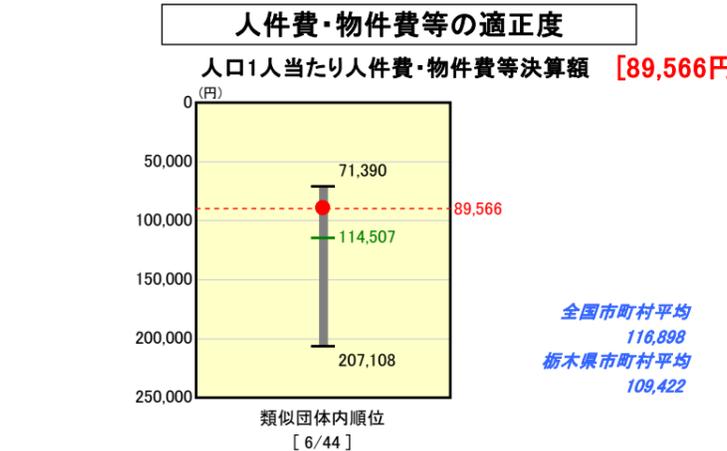
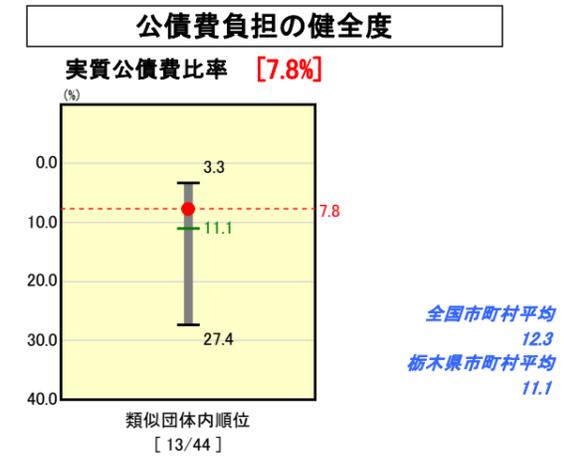
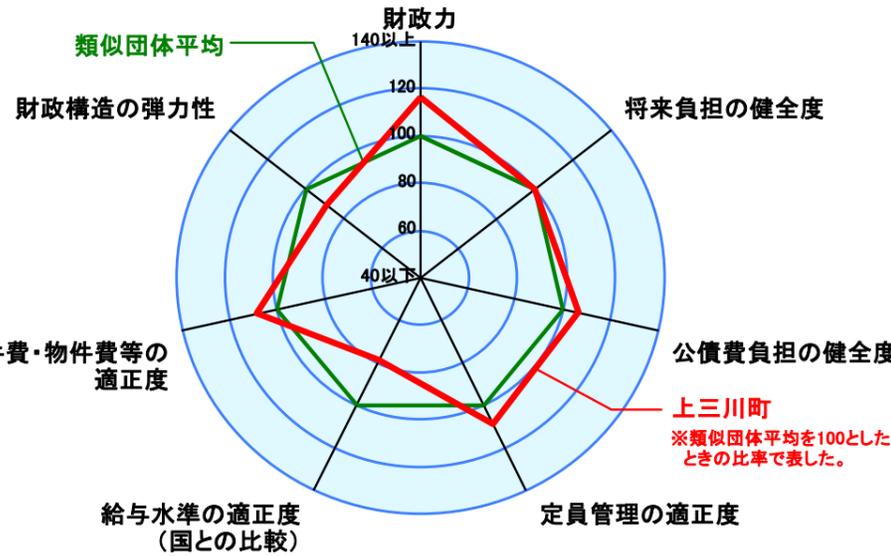
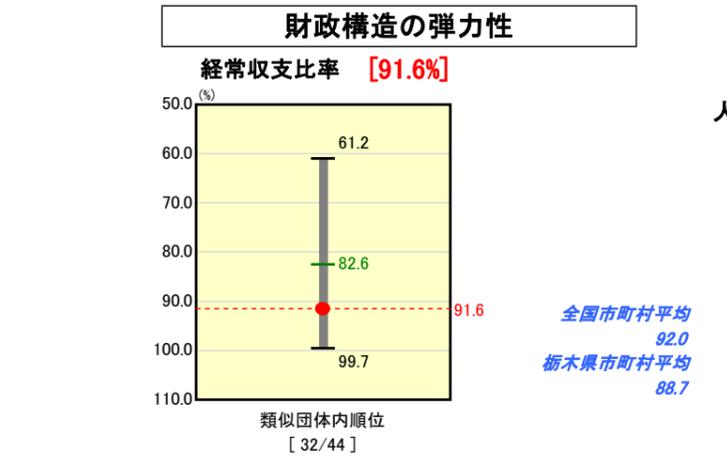
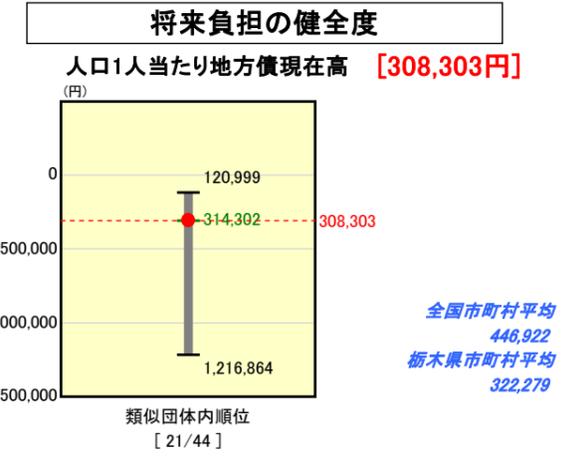
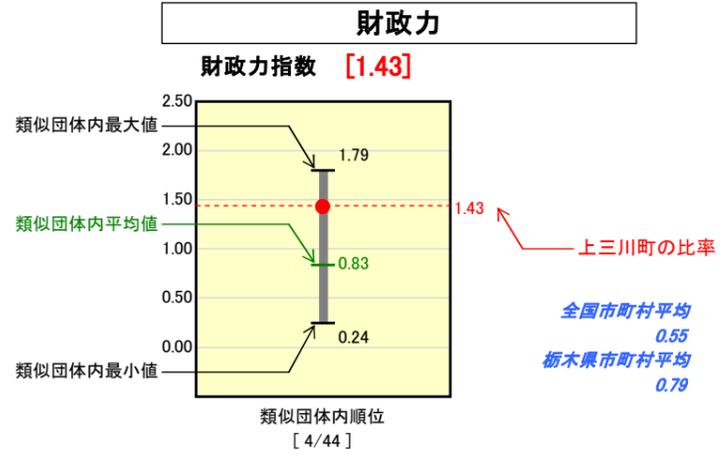


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

栃木県 上三川町

人口	31,688 人	(H20.3.31現在)
面積	54.52 km ²	
歳入総額	13,127,100 千円	
歳出総額	12,735,863 千円	
実質収支	380,329 千円	



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
※ラスパイルズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

分析欄

- 財政力指数**
大企業の事業所が立地することから、ここ数年での最高値を更新している。しかしながら、今後については数値は低下していくと予想されるので、町税の適正な課税客体の把握と徴税の強化を図り、安定した財源の確保を図っていく。
- 経常収支比率**
昨年度に比較して、大幅に数値が上昇している。扶助費や補助費等のほかに、特に公営企業特別会計への繰出金が増加したこと、経常一般財源の大半を占める町税収入が、前年度対比18%以上減額したことにより、分母の係数が小さくなり、結果として指数が上昇することとなった。今後については、行財政改革の更なる推進に努め、補助金等の見直し、経常経費の削減と財源の確保に努めていく。
- ラスパイルズ指数**
級別職務分類表を見直したことによって、それまでの年功的な要素が強いものから、職務・職責に応じた構造へと昇格の基準が移行していた。その効果によりラスパイルズ指数は、徐々に低下している。しかしながら、短期間での数値的の大幅な低下は現れないことから、現在も類似団体平均を上回っている状況にある。今後については、昇任基準の見直し等を検討することにより、更なる給与水準の縮減に努めていく。
- 実質公債費比率**
昨年度よりも数値は低下している。三ヶ年の平均値を採用しているため、平成16年度分(10%超)が対象から外れたためと思われる。今後は、上三川いきいきプラザ建設事業に起債した元金返済が、平成23年度から始まるので、今後、起債事業を厳選して指数が高まらないよう努めていく。
- 人口1人当たり地方債現在高**
類似団体平均とほぼ、同数値である。昨年度よりも数値が上昇したのは、平成18・19年度に実施した上三川いきいきプラザ建設事業に起債を充当したためである。今後については、起債を抑制して残高が増加しないよう努めていく。
- 人口1,000人当たり職員数**
平成17年度に策定した、定員適正化計画の平成22年度当初における目標値1.7%減を大きく上回る、平成20年度当初5.1%減を達成している。類似団体と比較しても職員数は少ない数値となっている。今後については、住民サービスの低下を招かぬよう考慮しながら、更なる削減を検討していく。
- 人口1人当たり人件費・物件費決算額**
類似団体平均よりも下回っている。昨年度と比較しても下がっており、民間委託・指定管理者制度を導入して、人件費の抑制を行ったこと等によるものと思われる。今後については、更なる民間委託等を推進し、経費の節減に努めていく。